



文部科学省委託
令和2年度初等中等教職員国際交流事業

中国とのオンラインによる教職員交流・ 中国教職員招へいプログラム実施報告書



はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア・太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU の教職員国際交流事業における日本のパートナー国は、2001 年から韓国、2002 年から中国、2015 年からタイ、2016 年からはインドが加わり、現在 4 ケ国と連携、東アジアから東南アジア、南アジアに交流国を広げています。開始当初より 2020 年現在までに、海外教職員は 4 ケ国合わせて 4,100 人以上、日本教職員は 1,100 人以上が海を渡り、教育現場が舞台の国際交流を通して、これらの国々の相互理解と友好の増進に大きく貢献してまいりました。

今年度、各国との交流プログラムは新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、オンライン上での交流へと形を変えて実施し、国内外の教職員延べ 174 名にご参加いただき、日本への受け入れには 13 の教育委員会や学校にご協力いただきました。各国のカウンターパートと協働しながら、オンラインだからこそその取り組みを模索する中で生まれた新たなプログラムもあります。変化の激しい社会情勢の中においても、国際交流の重要性を再認識し、課題を見据えながら、よりよい事業に昇華させていくため、ACCU は今後も真摯に取り組んでまいります。

最後に、本事業の実施にあたって多大なるご支援とご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2021 年 3 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

1 目的

本プログラムは、下記の活動を通じて教職員が相手国に対する理解を深め、お互いに学び合い、さらに自国の教育現場において国際理解を深める活動に積極的に関わっていくことで、ひいては日中両国の相互理解と友好の促進および持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

2 期待される成果

プログラムの成果として、教職員が自国の教育現場においてプログラムからの学びを児童・生徒や同僚の教職員に還元すること、日本と中国の学校間の持続的な国際交流を育むこと、国際理解の観点を大切にし、持続可能な社会への取り組みを推進する担い手となることなどが期待されています。

3 活動内容

- ・ 日本と中国の教職員の意見交換（オンライン・リアルタイム交流）
- ・ プログラムを通じた学びを伝える（児童・生徒や同僚の教職員への還元）

4 日程

2020 年 11 月 27 日（金）13:00-16:00（中国時間）、14:00-17:00（日本時間）

5 参加者

- | | |
|--|-------|
| （１） 2018 年度に中国教職員招へいプログラムにより訪日した中国教職員 | 2 人 |
| （２） 2019 年度に中国教職員招へいプログラムにより訪日した中国教職員 | 2 人 |
| （３） 2018 年度に日本教職員派遣プログラムにより訪中した日本教職員 | 1-2 人 |
| （４） 2019 年度に日本教職員派遣プログラムにより訪中した日本教職員 | 1-2 人 |
| （５） 2020 年度に中国教職員招へいプログラムに係る映像制作に協力した
大館市の日本教職員 | 1-2 人 |

●参加者リスト

分類	氏名	学校名	役職
2018 年度中国教職員招へいプログラム参加	孫寧	河北保定師範附属学校	副校長
	孫曉君	石家庄市盛世長安小学校	校長
2019 年度中国教職員招へいプログラム参加	嚴熙	上海市莘莊高校	副校長
	李新龍	個旧市第一高校	副校長
2018 年度中国派遣プログラム参加	富樫 未来	徳島県上板町立高志小学校	教諭
2019 年度中国派遣プログラム参加	赤松 潤子	兵庫県立青雲高等学校	校長
	宮崎 紀子	大牟田市立みなと小学校	教頭
2020 年度中国教職員招へいプログラム 映像制作協力	野呂 謙一	大館市教育委員会 学校教育課	主幹

実施内容

11月27日（金）に日中教職員各4名、計8名をオンラインでつなぎ、コロナ禍での学校現場について情報交換をいたしました。参加者のうち、7名は過去2年間に初等中等教職員国際交流事業のプログラムにより、中国または日本を訪れたことがあります。日本側3名は、それぞれ兵庫県、福岡県、徳島県から、残りの1名は今年度日本の教育紹介のために映像制作に協力して下さった大館市教育委員会の教職員です。中国側は上海、河北省、雲南省から参加がありました。

コロナ禍における学校での取組みについて日中双方各2名から共有されました。感染拡大防止に向けて、検温や学校設備の消毒に加え、中国ではごみ箱の設置を取り止めるなど、徹底した対策が取られていることがわかりました。日本側は、対面する時間が減ったことで、教員間の意思疎通を図るための工夫について紹介がありました。

遠く離れていても、それぞれの持ち場でCOVID-19との闘いに励み、お互いの状況を確認し合い、困難に直面しても知恵と工夫で乗り越えようとする教育現場の意気込みを感じられる時間になりました。

日本の参加者の声を以下に紹介します。

- ・昨年、実際に中国に行かせてもらったことで、かなり理解は進み関心も高まりました。今回は、私の中では、そのときのことを忘れず、継続させていくことの手助けとなりました。
- ・中国の子どもたちの様子や、コロナへの対応を聞き、日本と同様の取り組みをしている点やまた異なる点を比較して学んだことで、大館で行っている取り組みも引き続き行っていける自信にもつながった。
- ・中国の先生方のアピール力（いいものは良いとはっきり言える力は日本人にも必要であると感じた）が印象に残った。
- ・子供たち同士のつながり（お互いの国の紹介など）、教職員同士のつながりを持ちたい（どのような教育的活動を行っているのかなどをZoom等で話ができる機会があればいいと思いますが、言語の問題があるので、どうすればいいかは模索中です。）



集合写真（日中教職員各4名、他中国教育部・中華人民共和国駐日本国大使館・中国教育国際交流協会・ACCU・通訳者）

中国教職員招へいプログラム

プログラム概要

1 目的

本プログラムは、下記の活動を通じて教職員が相手国に対する理解を深め、お互いに学び合い、さらに自国の教育現場において国際理解を深める活動に積極的に関わっていくことで、ひいては日中両国の相互理解と友好の促進および持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

2 期待される成果

プログラムの成果として、教職員が自国の教育現場においてプログラムからの学びを児童・生徒に還元すること、日本と中国の学校間の持続的な国際交流を育むこと、国際理解の観点を大切にし、持続可能な社会への取り組みを推進する担い手となることなどが期待されています。

3 活動内容

- 日本の教育制度および教育政策についての研修（映像）
- 日本の学校教育に関する視察（映像）
- 授業視察を通じた教職員との交流（映像と文書）

4 日程

日程	流れ	活動	備考
11月2日(月)～11日(水)	日本 → 中国	日本から中国の学校へVTR送付 or 動画配信(日本の教育、教育実践、授業参観に関して)	文部科学省、秋田県大館市
	中国 → 日本	中国教職員による視聴、フィードバックシートへの記入、提出	秋田県大館市
11月11日(水)～20日(金)	日本	授業を担当した日本教員へ翻訳後フィードバックシートを送付	秋田県大館市
11月24日(火)～12月9日(水)	日本 → 中国	授業を担当した教員のコメント・感想を翻訳後中国に送付	秋田県大館市

5 参加者・参加資格

2018年・2019年に中国教職員招へいプログラムにより渡日した中国教職員、または2018年・2019年に日本教職員が訪問した中国の学校に所属する中国教職員で現在も中華人民共和国の初等中等教育の教職員(教育行政官及び教育専門家を含む)25名。

上記に該当する者で、以下の条件を満たす者

- ・日本教職員との交流に積極的であること
- ・終了後も教育現場において国際理解および日中交流の推進に取り組む意欲のある者
- ・ビデオ(DVD-R)またはオンラインで映像を視聴できること

●参加者リスト

分類	氏名	学校名	役職
2018 年度中国教職員 招へいプログラム参加	孫寧	河北保定師範附属学校	副校長
	孫華君	河北師範大学附属中学校	副校長
	孫曉君	石家庄市盛世長安小学校	校長
	張輝	陝西師範大学附属中学校	事務課主任
	楊富毅	北京第二実験小学校兰州分校	副校長
	肖苗	西安市鉄一中学校	行政管理教師
	張永国	天水市第一中学校	学生処副主任
	張燕	甘肅衛生職業学院	教務処処長
	賈小梅	甘肅省蘭州実験小学校	教頭
2019 年度中国教職員 招へいプログラム参加	嚴熙	上海市莘荘高校	副校長
	張瑾	上海市普陀区甘霖初級職業技術学校	書記校長
	張彩萍	上海市嘉定区馬陸小学校	副校長
	李新龍	個旧市第一高校	副校長
	陳芸	蒙自市第一高校	党委員会副書記
	朱彤吉	上海市甘泉外国語中学校、高校	教導処副主任
	張勤	上海市嘉定区普通小学校白銀路キャンパス	副校長
	陳肖前	上海市嘉定区留雲中学校	副校長
	王燧	弥勒市第三中学校、高校	校長
	易新艷	雲南省建水第四中学校、高校	副校長
	張永林	雲南省紅河州元陽県沙拉托中学校	副校長
	趙学成	雲南省石屏県冒合中学校	校長
	謝勇	瀘西市三塘郷中学校	校長
	李富保	雲南省紅河州河口県城区小学校	校長
	馬義三	雲南省紅河州紅河県迤薩鎮中心完小学校	校長
	趙鵬麒	雲南省紅河ハニ族イ族自治州第一中学校	学年主任

実施内容

映像を通じて日本の教育を紹介し、日本に対する理解を深めるためのプログラムを実施しました。映像の配信は、ACCU のホームページを通じておこない（限定公開）、初等中等教育に携わる中国の教職員 25 名には指定期間（11 月 2 日～ 11 日）にご覧いただきました。

映像の内容は、文部科学省による「日本の初等中等教育の概要」「SDGs 実現に向けた ESD の推進とユネスコスクール」「新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童・生徒の ” 学びの保障 ”」の講義、秋田県大館市教育委員会のご協力により実現した、地域の教育も含まれています。具体的には、大館市の教育、大館市立花岡小学校および大館市立北陽中学校の学校紹介、各校の授業マイスターによる授業それぞれ 1 時間分です。

通常の学校訪問では、いくつかの授業を回りながら短時間で視察する形式をとることが多いですが、授業の導入から展開、終わりまで、充実した内容を届けることができました。また、指導案も併せて共有したため、授業の作り方の一端も紹介できました。オンラインでは参加者の都合に合わせ、落ち着いて映像を視聴できたと思います。

映像配信後は、中国教職員からのフィードバックや、それを受けた授業を担当した日本教職員の感想を双方に共有し、手紙のような方法でやりとりを交わしました。対面交流に劣らない、たくさんの情報が交換でき、長距離移動を伴わずとも生活圏内で日本を知ってもらえるオンラインの利点を最大限に活用しました。



【映像の一部】大館市立北陽中学校「理科」の授業

☆中国教職員招へいプログラム関連企画「中国について学ぶ」①

中国との交流にご協力くださる大館市の先生方が中国について学ぶ機会がないため、例年中国派遣プログラムのオリエンテーションで日本教職員の訪中前に中国の教育事情について講義を担当して下さる文部科学省 総合教育政策局 調査企画課 外国調査第二係 係長 新井 聡氏にお願いしました。

10月7日(水)に大館市教育委員会と文部科学省をオンラインでつなぎ、大館市教育委員会や学校の教職員12名にご参加いただきました。新井氏は中国の教育の概観とともに、ICT化が進む教育現場についてもお話しくさしました。

参加者からは「社会体制を越えて、人間としてどのようなことを学んでいかなければいけないのかを考えるよいきっかけ」になったこと、「日本の小中学校の教育課程とのちがいを知ることができたこと」「お国柄によって、育成すべき姿が全く異なること」などの点で学びがあったという声が届きました。



大館市教育委員会にて文部科学省の講義を受講している様子

☆中国教職員招へいプログラム関連企画「中国について学ぶ」②

中国と日本の学校をオンラインでつなぐことが叶わなかったため、大館市立南小学校・南中学校の児童・生徒さんが中国を知る機会を失わないためのプログラムについて大館市教育委員会に相談し、日本に留学している中国出身の学生を通して中国理解につなげる機会を設けることができました。

日本の児童・生徒のみなさんの前でお話することを快く引き受けてくださったのは、以前 ACCU のプ



南小学校にて林さんのお話を聞いている様子

プロジェクトスタッフとして中国との交流でお手伝いをしてくださった北海道大学大学院経済学院博士課程現代経済経営管理専攻 林麗桂(リン レイケイ) さんです。11月12日(木)に南中学校、11月20日(金)に南小学校と林さんをつなぎ、中学3年生26名、小学6年生18名に向かって、中国の人口、食べ物、中国の学校について、林さんのことを交えながら、将来の展望も含めてお話しくださいました。

関係者コメント

大館市教育委員会 教育ツアーコンダクター 近藤 英成

大館市立北陽中学校 校長 伊多波 卓美

大館市立花岡小学校 校長 伊藤 哲朗

1. 今回の中国教職員向けの映像制作および映像を通じた交流について、ご感想をお寄せください。

(大館市教委) 従来であれば、大館市に来て、見たり、話したりすることで対応してきましたが、今回の新しい取り組みに、今後の社会状況においても交流における可能性や選択肢として、広がりを感じられました。映像については、クオリティを考慮すると、専門的な技術をもつ企業の協力が必要になり、実際に生で見ると多少温度感が伝わりづらかったりというデメリットは感じられました。しかし、映像として記録に残ることで、今後も適時活用することが出来る点や旅費などがこれまでよりもかからない点にメリットを感じました。

(北陽中) 直接的な交流はかなわなかったものの、映像を通して交流を進めることができ、新たな交流の在り方として提案できたのではないかと考えている。

(花岡小) あらためて自分の勤務する学校を見つめ直すよい機会となりました。また、教師一人一人の仕事ぶりがいかに大事であるかもあらためて認識する機会となり、教師育成の重要性を再確認いたしました。

2. 中国教職員向けの映像制作へのご協力によって児童・生徒さんが得たものはありましたか。

また、それはどのようなものか具体的に教えてください。

(北陽中) 映像制作を通して得たものというよりも、自分たちの取組に対して自信と誇りを醸成できたのではないかと考えている。例えば、「部活動応援ツアー」や「なべっこ」等については、「感謝」や「地域連携」からみて当たり前のことと考えてきたが、本市・本校の特徴的取組と評価していただけたことで、学校・地域に対する誇りを再確認することができた。

3. 中国教職員向けの映像制作へのご協力および映像を通じた交流により教職員や学校が得たものはありましたか。また、それはどのようなものか具体的に教えてください。

(大館市教委) 教育委員会としては、海外から見た日本や秋田・大館の教育という視点を大館市や全国に広く共有できること。学校や教職員の方々は、日々自分たちが取り組んでいることを映像として取り上げてもらったことで、自校に対する誇りや自信につながったことがあげられると思います。

(北陽中)「2」にも記載したとおり、自校の取組を外にいる立場の方々から評価されることで新たな価値に気付くことができ、生徒のみならず教職員も自信と誇りをもつことができた。

(花岡小) 1と同様です。

4. 映像制作へのご協力および映像を通じた交流において、苦労した点や困難だったことについて教えてください。

(大館市教委) 期間がタイトであったため、学校との日程調整が大変でした。また、どのような内容を撮影するか、どのように交流するかという前に、学校にたいして本事業の概要や映像撮影をする目的を説明することに苦労しました。私どもとしても、ユネスコ様と学校からもう少しヒアリングを重ねるなど、もっと事前の対応が出来たと感じているところです。

(北陽中) 普段通りの学校生活をそのまま撮影していただいたので、特に苦労や困難はなかったと考えている。

(花岡小) 学校は毎日のように様々な行事などがあり、日程を調整していただくのにご難儀をおかけいたしました。

5. 今後の交流プログラムの内容として、加えると良いと思われる活動がありましたら、ぜひ教えてください。

(大館市教委) 撮影前や交流前に、ユネスコ様と学校、教育委員会とで事業概要や映像撮影・交流の目的など共有したうえで、撮影する内容や日時設定を決める打ち合わせが出来るとより良いのではないかと感じました。

(北陽中) 直接交流できることが最も効果的と考えているが、情勢に応じて様々な交流の仕方があってもよいだろうと考えている。

(花岡小) 特にありません。

6. 今回の映像を通じた交流の課題・改善点を教えてください。

(大館市教委) 撮影期間が短かったため、例えば半年間くらいなど、期間を広げて少しずつ撮影出来たほうが、各方面が余裕を持って、内容もより豊富に取り組めたと感じました。失礼ながら、事業概要や目的の説明については、Zoom などを用いてユネスコ様から学校にお伝えした方がよく伝わったのではないかと感じました。教育委員会からの話でなんとなくは理解していたが、10月7日の伊藤様のご説明を聞き、よく理解したという意見が多かったためです。

(北陽中) 何分、交流先が求めている内容がどういったものであるのか、十分理解が進まないまま映像化したため、本当にこれでよかったのか不安に思っている。時間的に限られていると思われるが、事前研修がもう少し充実していたならと考えたこともある。

(花岡小) 映像だけだと、教師の熱量をお伝えすることが難しく、その点については課題となると思いますが、映像を通じての交流となればしかたがない部分ではあると思います。

2018 年度



中国派遣



韓国派遣



インド招へい



タイ派遣

2019 年度



中国派遣

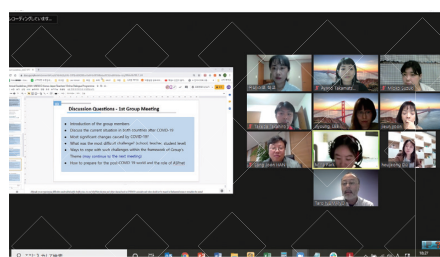


韓国派遣



タイ派遣

2020 年度



日韓教職員オンライン
対話プログラム

インド招へい



中国招へい



タイ招へい

タイ招へい



Expert Meeting



中国招へい



韓国招へい



インド招へい



中国招へい

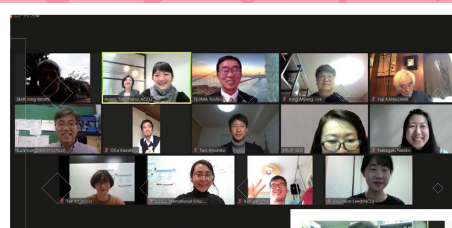


タイ招へい

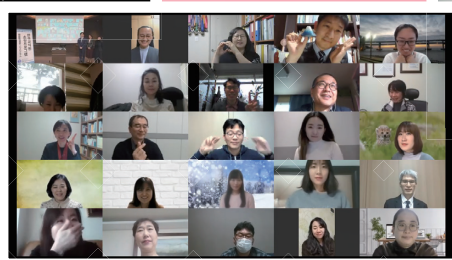
韓国招へいサブプログラム



中国とのオンラインによる交流



成果可視化委員会



韓国招へい

プログラム関係機関

●文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT

文部科学省 大臣官房 国際課長	氷見谷 直紀
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長 (令和3年1月1日付 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長)	三輪 善英
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長補佐	松永 佳子
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 企画調査係 係長	小野 康平

●海外パートナー機関

- ・韓国ユネスコ国内委員会 (KNCU)

Korean National Commission for UNESCO, KNCU

- ・中国教育部

Ministry of Education of the People's Republic of China

- ・タイ教育省

Ministry of Education Thailand

- ・インド教育省

Ministry of Education Government of India

- ・国際NGOインド環境教育センター (CEE)

Centre for Environment Education, CEE

協力してくださった教育委員会や学校（2020 年度）

●韓国教職員招へいプログラム

長野県上田高等学校	校長	廣田 昌彦
日本体育大学柏高等学校	校長	氷海 正行
千葉市立稲毛高等学校	校長	佐藤 啓之
八千代市教育委員会	教育長	小林 伸夫

●中国教職員招へいプログラム

大館市教育委員会	教育長	高橋 善之
大館市立北陽中学校	校長	伊多波 卓美
大館市立花岡小学校	校長	伊藤 哲朗
大館市立南中学校	校長	駒木 聖子
大館市立南小学校	校長	御船 美喜雄

●タイ教職員招へいプログラム

名古屋経済大学市邨高等学校	校長	澁谷 有人
山形県立山形東高等学校	校長	須貝 英彦

●インド教職員招へいプログラム

北杜市教育委員会	教育長	堀内 正基
北杜市立甲陵高等学校	校長	小尾 和正

事業実施・運営機関

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F

Tel: 03-5577-2853 Fax: 03-5577-2854

Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp

URL: <http://www.accu.or.jp>

田村 哲夫

Mr. TAMURA Tetsuo

理事長

進藤 由美

Ms. SHINDO Yumi

国際教育交流部長

高松 彩乃

Ms. TAKAMATSU Ayano

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

伊藤 妙恵

Ms. ITO Tae

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

岡野 晃一

Mr. OKANO Koichi

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

天満 実嘉

Ms. TEMMA Mika

国際教育交流部プログラムオフィサー

小澤 華木

Ms. OZAWA Hanako

国際教育交流部プログラムオフィサー

**文部科学省委託 令和2年度初等中等教職員国際交流事業
中国とのオンラインによる教職員交流・
中国教職員招へいプログラム実施報告書**

2021年3月

発行	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
〒101-0051	
東京都千代田区神田神保町 1-32-7F	出版クラブビル
電話	(03)5577-2853
Email	accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL	http://www.accu.or.jp
デザイン・印刷・製本	株式会社ワコー
編集	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際教育交流部

© 2021 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO(ACCU)

[illegible]

[illegible]

